

Ms. Nancy Landon Kassebaum Baker,  
駐日アメリカ大使夫人 特別講演  
“Challenge of Change”

松 縄 順 子\*

Ms. Nancy Landon Kassebaum Baker, 駐日アメリカ大使夫人 特別講演 “Challenge of Change”

10月29日、神戸女学院大学祭の当日、東京より駐日アメリカ大使夫人、Ms. Nancy Kassebaum Bakerをお迎えして“Challenge of Change”と題する特別講演会が開催された。

Baker夫人は出身地カンサス州からアメリカで初めての女性米国連邦上院議員に選出され、3期、18年間上院議員を勤められた。その間、アフリカ問題委員会、航空委員会、外交問題委員会、ヒューマンリソース委員会等の委員長の要職にあられて活躍された。

1996年の上院選には立候補されず、その年レーガン政権で上院院内総務、大統領主席補佐官を努められたハワード・ベイカー・ジュニア元上院委員と結婚され、2001年にベーカー駐日大使とともに来日されるまでの間、多くの財団の理事、国家僻地医療委員会委員長、米中関係全国委員会、アフリカ法律協議会、国際医療団、米国拳銃規制協会の理事の要職に就かれていた。4人のお子様と7人のお孫様をお持ちの家庭婦人でもある。

学部生、大学院生、卒業生、一般の教育関係者約250人の聴衆を前に、“Challenge of Change”という題目で変革の時代に生きる女性と教育、職業、生き方の選択についての講演であった。神戸女学院の創始者の2人の女性に言及して話しを始められた。1800年代に勇気あるタルカット、ダットレー女史が異国の地、日本へ、一方日本人の若き女性がアメリカの地へと各々が使命を持ち、時代の変化に挑戦していったこと、ご自分がカード会社の受付嬢から仕事を始め、次第にアメリカ上院議員に選出された過程を例にとりながら、女性のその時の人生の優先権は何かを認識して選択する重要性を説かれた。そして常に要請のあった時に受けて立てる為に準備をしておくことの意義、そこに教育を受ける重要性があると確信する。教育こそが、多くの若い人々に最も影響を与えるものであり、知識を持つて社会に参画することが社会に変化をもたらす。家庭の主婦も教育を活用し、自分の人生の流れの中で自分の優先順位 (priority)

---

\* 文学部英文科 教授 松縄順子

講演会翻訳 監修 松縄順子、翻訳：内藤能、長井聡子、辰巳圭子、神山真紀子

のバランスをとり、自分が担う役割を認識する必要がある。女性は変化の時代に如何に挑戦していくかを知るべきだ。これからのグローバル化の進む世界で、世界の国々はもはや孤立して進むことはできない。同盟国として協力し、国際社会で役割を担っていく為には母国語以外の外国語を習得するべきである。シェクスピアーのハムレット「われわれは現在の自分は何であるか分かっているが、どうなるかはわからない」を引用して、それが変革への挑戦の素晴らしさであると講演を結ばれた。まさに、神戸女学院の教育理念に沿った、21世紀の変化に対処しなければいけない時期に相応しい女性の生き方について示唆を与える講義であった。

大学院生、内藤能、辰巳圭子、長井聡子、神山真紀子による英一日、日一英の同時通訳が行われ、国際的な講演会のコミュニケーションが十分図られた。活発な質疑が40分間に渡り日本語、英語で出され、ベイカー夫人の丁寧な、熱心に答えられる様子が大変印象的であった。質疑応答はご自分の上院議員への選出の細かい過程、委員会の仕事の説明、国際関係、国際社会における日本の役割と国連安全保障理事会への常任理事国入りの可能性、聴衆の関心事である大統領選挙の問題点の指摘、神戸女学院のリベラル・アーツ教育が多様な選択肢を持つこと、生涯教育の重要性等多岐に渡った。講演の題目を具体的に掘り下げた興味深い応答であった。学生にとり、将来の理想的なモデルとしてにこやかで魅力的な夫人を間じかにし、講演を伺えたことは大変有意義であったであろう。

## Challenge of Change

Thank you for your very thoughtful introduction.

It's great pleasure for me to be visiting here at Kobe College today. I know you are in the middle of festival week and I'm impressed that many of you are attending a lecture. But it's important to me and I was fairly pleased to be invited because Kobe College is a very special institution and is representative to me of what education is about.

I have to reflect on a history of Kobe College. In the late 1800s, when two American women missionaries, believing how important education is, started the college. At the same time, there were many, well, not many, but there were some very young Japanese women who were sent to the United States to study by their family, and particularly fathers who believed education was important.

Neither the Americans who came here could speak Japanese or the Japanese young women who went to the United States could speak English. And I have to wonder if I would have had that courage, at that age, to undertake what they did on both sides, because it couldn't have been easy. And yet the belief in importance of education, the desire to understand the different culture and see the different part of the world was very important to them just as it is for us today.

I've been very fortunate, living as I was growing up, as I did in the state of Kansas. How many of you know here Kansas is? I know you know, Dean, yeah. It's right in the middle of the United States. So we were rather insular in many ways. And when I was growing up in an era before television or before people hopped on a plane and traveled it, going to Kansas City was a big adventure for us or even Chicago.



本日、神戸女学院を訪れることができ、本当に嬉しく思います。学院祭の真最中とのことですが、こんなにたくさんの方々が講義を聴きにきてくださり感激しております。

お招きいただきました事、私に取りましても意義深く、とても嬉しく思いました。神戸女学院というのは特別な学院であるからです。神戸女学院自体が教育とは何かということを象徴していると思います。

神戸女学院の歴史を振り返ってみますと19世紀後半、2人の若いアメリカ人宣教師の女性が教育の重要性を信じて、この学校を始められました。同じ頃、数は多くはありませんが、幾人かの若い日本女性がアメリカに勉学の為渡りました。教育の重要性を信じるそれぞれの家族、特に見識のある父親たちによって送り出されたのです。日本に渡ってきた若きアメリカ人女性宣教師は日本語を話せませんでした。そして若くして渡米する日本人女性たちも当時英語を話すことは出来ませんでした。私だったら、果たしてそのような勇気、日米両側の彼女たちが持っていたような勇気を持てただろうか。けっして容易いことだったはずがありません。しかし、彼女たちは教育の大切さ、異文化を理解し外の世界を覗こうとする事の意義を信じていたのです。そのことは、まさしく今日の我々にとっても非常に重要なことであります。

私がカンザス州で生まれ育ったことはとても幸運であったと思います。この会場にカンザスがどこにあるか知っていらっしゃる方は何人おられるでしょう。(そちらの先生はご存知ですよ。) いろんな意味で他から随分かけ離れたところです。私が子供の頃、というのはテレビが登場する少しばかり前のことで、人々が飛行機で旅行をし始める以前のことでありますが、カンザスシティーまで行くことが私たちにとっては、一大冒険旅行でした。シカゴに行くこともそうでした。私が育った時代というのは随分今とは違っていたのです。

So I grew up at a different time just as my parents grew up in a very different era, between two World Wars. World War One and World War Two for my parents, and depression era in the United States. My children have grown up in a different era and I look at my grandchildren and wonder just as I look at you who are students here today and wonder what you will be facing as you enter another era. One clearly that is much broader than mine was when I was growing up, you will be growing up in the world much more international, much more engaged in the rest of the world. In that understanding of what the rest of the world is like is so very important to us all.

But what Kobe gives to you as Kobe College and what my education I hope gave to me was a sense of appreciation for learning, and appreciation for an understanding of others. Because that really is the heart of what is all about and the respect for education. I sometimes look at young people today and I wonder what they will be willing to go through just to get an education.

I'm reading a book now about a biography of Alexander Hamilton. And I'm not sure that many of you would remember him. But it's also about the founding father in the United States of our constitution. And how many of them really didn't have the advantage of college education as we know it today. How many were self-taught because they read and read extensively in history and classics. And they had time to think about what it was they were reading. And it was that ability to perhaps have the time to reflect on those issues around us that becomes important.

I never dreamed when I was at the university that I would serve the United States Senate. I had never planned on that career. Actually my first job was as a receptionist for hallmark card, greeting cards. And I had to take tours at hallmark plant in Kansas City.

I majored in political science but my father used to say, “what can you do

そしてそれは、私の両親の育った時代、2回の世界大戦の間のアメリカにおける大恐慌時代とは、違った時代でありました。私の子供たちが育った時代は、またひとつ違った時代でした。私の孫たちのことを考えますと、ちょうど今日ここにいらっしゃる学生の皆さんと同じだと思いますが、皆様は新しい、今とは違う時代をいったいどのように生きていかれるのでしょうか。その時代は、私が育った時代と比べると、もっと明るい時代であろうことははっきりとしています。より国際化された、世界の他の地域とより密接に結びついた時代でしょう。そのように考えますと、我々すべてにとって、外の世界がどうなっているのかを理解することが非常に重要になってきます。

神戸女学院が皆様に与えるもの、また私が受けた教育が私に与えてくれたと願うものは、学ぶことの意義を知ること、他の人たちを理解することの大切さであります。そういうことが、まさに高等教育の持つ意義であります。今日の若者を見ると、教育を受けることで、いったい何をしたいと思っているのかと考えてしまいます。

今、私はアレクサンダー・ハミルトンという人の伝記に関する本を読んでいます。彼の名前を覚えていらっしゃる方は少ないと思いますが、その本には、米国建国の父たちのこと、合衆国憲法の草案者、擁護者たちについても書いてあります。当時、そういう人たちのうち何人が、我々の知るところの大学教育を受けたのでしょうか。多くの人たちは読書、集中して本を読むことを通して独学で、歴史や古典を学んだのです。彼らは読んでいる内容について、それがいったい何であるかと考える時間を持ちました。自身の周りの事柄について振り返って考えてみることは、我々にとっても大切なことでもあります。

わたくしは大学生の頃には自分が米国上院議員になるとは思いもしませんでした。そんなキャリアは全く計画していなかったのです。実は、わたくしの最初の仕事はカードのホールマーク社の受付だったのです。カンザスシティーのホールマーク社にいらっしゃるお客様に工場の見学ご案内もしたのですよ。

大学では政治学を専攻致しました。父は「その学位を取って何ができるん

with that degree?”. While I never thought I would be anything in the political arena necessarily, but I grew up enjoying politics. I came from the family that had been involved in politics and so I'd always been keenly interested.

But I married and had four children and didn't pursue what I then had intended with the graduate degree to teach. So at this juncture let me just pay homage to those of you who are teachers here today. I don't think there is any more honorable profession than teaching. I think all of us remember teachers who influenced our lives. And for those of you who are students, who are thinking of becoming teachers, I can't think of a more valuable, honorable profession than being a teacher. A teacher has more influence over young person than almost anyone else. And the values that can be imparted by teaching are enormous importance. But I valued my education and then raising family and did those things that one does. I was on the local school board at that time and we lived in a rural area. And I'm strong believer in local school boards, obviously. And I think that actually strong boards of education are very important for education system.

But as my children were grown, my youngest was a senior in high school, when I ran for the United States Senate, there was an open seat in the United States Senate and a lot of my friends said they thought it was a good time for a woman to run for the Senate. And so my life had changed at that point and my children were grown to the point where I thought that would be something that I would like to try and do. I was very fortunate in having friends and family who were very supportive and who helped me campaign, who encouraged me to do so. And I think for any of us says we are out in our lives, it's friends and family who lends such great support. I couldn't have done that without that.

We are in the middle, as you probably know, in very tempestuous, maybe you would say campaign season, in the United States. I've already voted absen-

だ？」と訊いたものです。わたくしは必ずしも政治の世界で何かできるとは思っておりませんでした。しかし、政治に深く関わる家族の出身ですので政治を楽しみつつ大きくなり、いつも政治には非常に興味を持っておりました。

修士号を取ったら教師になろうと思っておりましたが、その後わたしは結婚し、4人の子どもに恵まれまして、教師の道には進みませんでした。今日こちらにいらっしゃる皆様の中で教師をしておられる方には深い敬意を払わせていただきます。教師よりも名誉ある職業は世の中にありません。

皆さん自分の人生に影響を受けた先生がおありだと思います。又、今日こちらにいらっしゃる学生の方でこれから教師を目指される方がありましたら、教師よりも価値のある、栄誉ある職業は他にないと申し上げます。教師ほど若い人に影響を与える方々はありません。教えることにより与えられる価値は非常に大きいのです。しかし、わたしは自分が受けた教育も、子供を育て、他の方々と同じように家族の世話をすることも大切なことだと思っております。その他、当時地方に住んでおりましたので、地元の教育委員会の委員も務めました。わたくしは勿論、地元の教育委員会の強力な信奉者です。教育制度にとって、強力な教育委員会が必要なものと私は考えております。

私が上院議員に初めて立候補した時、私の末の子供は高校3年生でした。折しも、地元の上院議員の席に空きができ、わたくしの友人の多くが、女性が立候補するのは時宜を得ていると考えました。私の人生も変化し、私の子供も大きくなってきていましたのでこれに挑戦してみたいと私は思いました。わたしは友人や家族に支えられて幸運だったと思います。彼らが選挙運動の手助けをしてくれましたし、わたしが立候補するように勧めてくれました。私達の人生で素晴らしい援助をしてくれるのは家族や友人です。彼らの尽力なしにわたくしはやってこられませんでした。

皆さん多分ご存知のことと思いますが、今米国は大荒れの選挙戦の真只中にあります。私は不在者投票をもう済ませましたし私の票が数えられると信じています。火曜日、私達米国民は大統領を選出します。投票率は近年になく高ま

tee ballot and I trust it's counted. But Tuesday we select the President of the United States. I think the turnout will biggest we've had in quite a while. I hope so. Because actually in the last elections only about 50% of American people have been participating in the elections. But a person does... one vote can make a difference and you don't realize on the scale perhaps of a national election. But you get down to legislative races in your prefectures or our states, and it does make a difference, and it's an important difference. And this ties to education.

In the United States I think we are moving closer and closer to a debate on whether we have representative democracy or direct democracy.

Everybody might be able to have a chance to vote on an issue. We've gone California as a state of a good example of referendums with all the new initiatives that can be put on a ballot with initiatives or referendum and proving something.

And so you get enormous fights at the local level on very important issues. I myself am not sure that a direct democracy is best. I think a representative democracy allows a filter system. Because with direct democracy if everyone isn't following an interest in what's happening, and thinking through those issues, you're very easily influenced by many extraneous circumstances.

I'm a little far from how I've got to the United States Senate. But mostly it ties in how important education is. I never felt as a housewife that I was not utilizing my education.

I think it is unfortunate today for either a young woman or young man and particularly perhaps for women if they don't have a career then their education is wasted. Not true. I guess for one thing you never know as I didn't know when you might be called upon to pursue a very different road than one you might have planned. But I think for young women and particular, you bal-

ると思いますし、そう願っています。実は前回の選挙では約半数の人しか選挙に参加をしなかったのです。一票が大きな違いを生むのです。国政選挙になると一票の重みが分かりにくいと思うのですが、日本でなら都道府県、アメリカでは州レベルの選挙ではもっとはっきり分かります。一票が重要な違いを生みます。これが教育にも関わってきます。

米国では直接民主制か議会民主制かという議論が高まってきています。(直接民主制では) 皆が特定の問題について投票する権利があるわけですね。カリフォルニア州の住民投票は良い例です。個々の協議について住民投票が行われます。何かを承認する、といったことですね。地元レベルで非常に重要な問題についての戦いがあるわけですね。ただ、私は直接民主主義が最高かどうかは分かりません。議会民主制はフィルターとして働くのからです。なぜなら直接投票では特定の問題に深く注意を払っていない人・深くその問題について考えていない人がいると、非常に極端な状況に左右され易くなってしまうからです。

わたくしがどうして上院議員になったかという話からは少しそれてしまいましたね。しかしどちらでも教育の重要性という意味で深い関わりがあるのです。主婦としても、自分の教育を役立てていないなどと考えることは私には全くありませんでした。

今日、若い人、特に女性の中に、キャリアを追及できなければ自分の受けた教育は無駄だったと思う人がいるのは残念なことです。実際はそうではないのです。1つには、もしかしたら私が自分の未来がこのようになるとは思ってもみなかったように、考えていたのとは全く違った道が将来開けてくるかもしれないのです。しかし、若い女性は特に人生の優先事項の均衡も取っていかなければならないのです。これは多分男性よりも女性にとって繊細な問題です。女性は、老いゆく両親の面倒・家族の世話などの均衡を取っていかなければならないですね。自らの選択肢を秤にかけなければなりません。あるときにはどれかが優先し、又別の時には別のものが大切となる。しかし、キチンと教育を受けて知識があり、準備ができていれば、自分が自分でいることも居心地がよく、

ance... we balance priorities in our life. Which, perhaps, is more sensitive to than men? Women have to balance responsibilities of older parents, a family that we need to way out in the choices we make. And at one time maybe one thing and another at maybe another. But if you are prepared and if you have given to education, something that will enable you to feel comfortable with yourself and secure in your knowledge. Then I think those priorities become clear. The opportunities greater and you are prepared to step forward when called upon.

I was very lucky being, I say, at right time at the right place. They want many women for elected national office at that time to serve United States Congress. Today, at one point, when two years ago, I was the only women Senate, today there are fourteen or sixteen, I should have looked it up, but I think fourteen. So it won't change, there always be women representatives, the House of Representatives and the Senate. And it's no longer a big deal, it's a voice that is heard, just as men's voice and women's voices were there all engaged, where they're looking at economics, foreign policy, health care, all the issues that affect us all, regardless our gender.

But the women who serve as governors, women who are serving as state legislators at a dimension, and I think of voice that is important. But just as important is the voice that you make heard in your neighborhood, your school, the community, because it makes a difference. I would just suggest even at Kobe College, if you feel something needs to be changed, it is an opportunity to be engaged in learning how to address what is you feel needs to be changed. May be it is some curriculum. I don't know what it might be, I don't want to suggest revote at college. But whatever you feel, it is one thing to criticize, it is another to know how to be constructive in making the case for what needs to be different.

自分の判断に自信が持てますし、優先順位もより明確になるでしょう。与えられる機会も大きくなるでしょう。そして機会があれば前に踏み出す準備ができています。

わたくしはいい時期に良い場所にいましたので幸運でした。(わたくしが当選した) 当時は女性が米国議員に選出されることは稀でした。一時、二年ほど、私が唯一の女性議員だった時期もありました。今日では14人、あるいは16人でしたでしょうか、確か14人だったと思いますが、確認してくるべきでしたね。思いますに14人、まあ、大きな違いはありません。それ程多くの女性議員がいて、上院でも下院でも女性議員がいて、それ程珍しいものではなくなりました。女性の声が聞かれるようになり、男女両方が、性別に関わらず、経済問題にせよ、政策、医療にせよ男女共に関わるようになったのです。

女性が州知事や議員になることで、異なる意見が代弁されるようになることは、とても大切なことです。しかし、それにも劣らず、自治会や学校、地域のレベルで声を上げていくことも大切で、そうすれば変化をもたらすことができるのです。神戸女学院の皆さんも、大学で何かを変える必要性を見いだしたときには、それをチャンスととらえてください。自ら参画し、変えていかなければならないことにどう対処すればよいかを学ぶことができるのです。大学に反抗せよとは言いませんが、カリキュラムのことでも何でもいいのです。あら探しをすることと、何かを変えるために建設的に取り組むことを学ぶことは違います。

今回のアメリカ大統領選では大変な争いが繰り広げられています。両党があのように敵意をむき出しにすることは残念だと思います。強力な二大政党があることはとてもいいことだと信じています。私自身は共和党員ですが、常に公認候補に投票するとは限りません。父にはそういうことは言えませんでした。私の子供たちは私よりもずっと自立していますから、彼らが公認候補に投票しないこともあることを私は承知しています。いづれにしても、強力な二大政党があることは重要で、アメリカにおいてその役目は十分に機能してきました。

For us in the United States, this has been a very, very contentious presidential election. I myself, I am dismayed at the bitterness that has surfaced between our two parties. I am a strong believer in two strong political parties, I am a Republican, but I don't always vote a straight ticket. My father would not have approved. But I think my children are much more independent than I am. And I know they don't vote straight ticket. But nevertheless, the importance is two strong political parties. They have served us well,

But we have developed now, I think it largely because the television has become so intrusive in the ads and money that spend in campaigns. I have been so impressed since being in Japan, and how many people turn out to hear a speech. There is a big turn out, whenever the candidates are speaking. There is a lot of reading about the election, and that is really important. Lately we had big turn out for speeches in the United States, but I am not really sure that people are really engaged, may be that is true everywhere, in as much dialogue and debate back and forth as is beneficial.

I am amazed when I hear or read about the early campaigns, when some one, the president Lincoln for instance in 1860s when he was running for office, the Lincoln-Douglas debates in the United States. And the big debate was over slavery. They go on for hours in a debate. And hundreds would be there listening. I just don't know anybody would do that today. Would we spend that length of time, and listen and be engaged in debate? That really is how times have changed.

But I think for those of you who wonder if education is important, that is what makes a difference. To be informed, to be engaged makes a difference, whether it is right here on the college campus, whether it is in Kobe, Osaka, Tokyo, for wherever anyone may be.

There is a lot of talk about globalization today. I don't know exactly what

ところが、選挙戦で使われるお金や宣伝に慎みが見られなくなりました。これはおもにテレビの影響でしょう。この点で、日本に来てからとても感銘を受けたことがあります。候補者の演説を聴きに行く人が非常に多いことです。これはとても大切なことです。最近ではアメリカでも演説を聴きに行く人が多かったようですが、みんなが本当に参画して、有益な討論や対話がなされたのか、確信がもてません。どこに行っても同じなのかも知れませんが。

昔の選挙戦について読み聞きするたびに感心します。例えば、1860年代のリンカーンとダグラスの大統領選で奴隷制が大きな争点となっていたときの討論は何時間も続きました。そして何百人という人が聴いていました。そのように長時間討論に耳を傾け、参画しようとする人が、今日いるのでしょうか？それくらい時代が変わったのです。

教育の重要性に関して確信がもてない人がいるとすれば、私は教育こそが変化を生み出すのだと言いたいと思います。知識をつけて参画することが変化を生み出すのです。大学のキャンパスであれ、神戸、大阪、東京、どこにいてもそれは同じです。

昨今、グローバル化ということが言われますが、それが一体何を意味するのか、私にははっきりとは分かりません。世界がより国際化したことは確かです。アメリカでも日本でもさらに国際化が進むでしょう。ですから、通訳をしている人には敬意を表します。私自身は日本語のレッスンを六ヶ月ほど受けましたが、断念しました。日本語では少しの言葉しかお話できないのが残念です。しかし、通訳者や翻訳者、また国際関係で活躍する人や留学する人にとって、外国語は大切です。自分が将来、海外交流活動をするかどうかはわからないものですが、外国語の能力は大変重要で、今後ますます大切になっていきます。日本が国際舞台でより大きな役割を担うにつれて、外国語は話し合いの中で不可欠になっていきます。

米国では今、大統領選挙の討論が行われていますが、国際舞台でどのぐらい話し合いにかかわっているのでしょうか。どの国も単独ではやっていけないと私

it means except we are much more international world today. And we will be, you will be. That is why I salute those who are doing my interpretation, because I took my Japanese lessons for about six months, but I gave up really. I only regret that I can't say but just a few words. But for those who are interpreting, who are doing translations with books, it is so very important. And those have been in international relations, who are studying in a field what would take you beyond Japan. And you never know when you will be doing some exchange work. The ability to have different languages is so important, and it will become increasingly so. It will be very important in Japan, as Japan seeks its role in the international arena. It is going to be crucial and those debates for Japan. And it is important for United States, I believe, as we are debating today as part of the presidential debate, how much we are engaged in the international arena. I am a firm believer no country can go alone. We do live in a world today where we have to work with our alliances, and they may be changing. But they change based on an understanding. And that is an understanding of the change that is often hard for us, because it provides us uncertainty, insecurity, and you grab on to whatever seems the closest at your hand, that seems to radiate confidence, and determination. It is very hard as a politician to be nuanced. Today in the United States, if you can do a good thirty second sound bite, you are in trouble. But I think it is very important for us to be able to have an understanding of a depth of an issue to a greater extent.

I have learned as I visited Japan several times before we came in 2001, but I know both my husband and I ever gave a great appreciation for the wonderful hospitality and beauty of Japan. There is a tradition in Japan that you don't ever want to cast aside. There of their things one celebrates with the festivals, the changing seasons, and the appreciation for the beauty of that. That is what Japan is about. In many ways, that makes it very special. And we have come to

は信じています。世界の中で生きているわけですから。同盟国と協力する中で変化がありますが、その変化の基盤になるのは理解です。変化を理解することなのです。しかし、ここがいつも難しいところです。なぜなら、不確実、不安定だからです。自信と決意を放射しているように見える最も手に届きやすい物をつかもうとします。政治家にとって、言葉の微妙なニュアンスは難しい問題です。今米国では、テレビで引用される30秒ほどの短い発言でうまく表現しないと、大変なことになります。しかし大切なのは、問題を深く理解できることです。

2001年に大使夫人として来日する前に何度か日本に来ました。主人も私もいつも素晴らしい歓迎ぶりに感謝し、また日本の美しさに心うたれました。日本人は伝統を決して捨ててはいません。祭り、四季の変化、これこそ日本らしさだと思います。独特の魅力があり、大変感動しました。変化の話をしているのはこのためです。変化とは捨て去ることではありません。伝統が日本独自の魅力を作り、世界に誇る文化価値を生み出しているのです。米国は、歴史の一部である昔の建造物の保存の点で遅れていますが、皆さんが歴史の一部である建造物を理解し大切にすることは重要で価値あることです。現在そして将来を考えるにあたって、多くの不確実な要素があります。

さて、私自身はeメールを使いたくはないのですが、孫はみな、8歳の孫までもメールをしています。誰もが携帯電話を使っていますね。東京の街角では誰もが携帯で話しています。一体何を話しているのでしょうか。時には仲直りをしているかとも思いますが、よくもまああんなに話すことを考え付くものだと感心します。確かに将来の技術は変化をもたらします。しかし基本的な価値観は変わりません。何か不都合があれば声をあげていく。日本では、様々な憲法改正の問題が議論されています。例えば内親王が天皇の地位につけるように改正する。自衛隊の軍事力を防衛のために使うのか、自衛隊船舶を海外で活動させてよいものか、またはどんな活動ができるのか。簡単な問題ではありません。米国内でも簡単ではありませんし、簡単であるべきではありません。しかし、

admire a great deal. That is why we talk about change. It doesn't mean you eradicate everything that we have known. It is an appreciation for that makes it unique. That makes it a value of culture that can be shared with the rest of the world. We in the United States came very late to preserving some of our old buildings, some of the things that are part of our history. And those things are part of your history are very important to be understood and valued as well. So when we look at when we are, where we are going, there is a lot of uncertainty ahead.

I myself rebel at doing email, but I fully realize all my grandchildren do even at the age of eight. Everybody uses a cell phone. I walked on a street in Tokyo where everybody was talking on the phone. I always wonder what everybody says to everybody else. I sometimes think I just make it up. I don't think I can think of that much to say. But it is the technology of the future, and it is very much a part of how we'll change. But some of the basic value never changes. Our willingness to raise voices when we think something is wrong. And in Japan, a great debate on whether the constitution should be changed in one way or another, may be whether the constitution should be changed to allow a little princess to become a next empress or emperor, as the case may be whether the use of military force as a defensive force, how we can or should we use abroad. These are not easy questions. They are not easy for us, or shouldn't be in the United States as well. But their voices that are raised as we debate those important issues in your country, and my country, are ones that would be determined by many of you who are here today. And that your willingness to be a participant in the process, that makes the difference.

So it is an exciting time to be young, because there are many exciting opportunities. But I think also because there are so many sort of arenas out there, it can be confusing, and can be uncertain. But your willingness to be engaged

このような重要な問題を議論する際の意見は、日本そして米国において、今日ここにいらっしゃる皆さんからの意見だと思います。プロセスに参加しようとする意思の違いを生み出すのです。

若いことは素晴らしいことです。なぜなら素晴らしい機会に恵まれているからです。けれども同時に、活躍の場が余りに多すぎることによって混乱、不安が生じることもあります。しかし、関わりを持つようとする気持ちが変化を生み出します。じっとしていても何も起こりません。ただ幸運が転がり込むということはありません。ですから孫を見ていると、これから何を経験するのか、何をしたいのかと案じます。そして将来のキャリアの選択肢を考えてほしいのです。米国の教育制度にもっとがんばってほしいと思っています。将来を見据えて、どんな役割が必要なのかを考え、先生であれ、医師であれ、看護師、会計士、中小企業の社長であれ、興味あるところに将来の夢をえがくときに役立ってもらいたいと思います。

さて、神戸女学院には有名な音楽学部がありますが、音楽教育に力を入れていることも日本の大きな特徴です。東京で数多くのコンサートに参りました。つい最近では、ニューヨーク・フィルハーモニックを聴きました。メータさんの指揮で演奏され、彼とお話しして意見を同じくしました。つまり、日本の聴衆の前で演奏するのが一番だということです。ここに音楽学部の方がいらっしゃるかもしれないのでお伝えしますが、この手の話はよく耳にします。「日本の聴衆はとても音楽に敬意を払っているので、日本で演奏するのが楽しい。米国では聴衆は飛び上がったり、拍手をずっと続けたりして関心がある点では同じだが、日本では尊敬の念を感じる。音楽を本当に大切にしている。」同じく感嘆するのが政治のやり方です。ここで一つ申し上げたいのは、日本で大切にされてきたことは、皆さんの人生においても大切だということ、これからも大切にすべきだということです。

しかし今日の若い女性にとって、人生の優先順位のバランスをとること、自分が担うことのできる大切な役割を認識することは重要なことです。子供が小

is what will make a difference. It doesn't just happen. Something is just going to land in your life. And I think that is what I look at my grandchildren and wonder what they will see, what they want to do. I hope that you think what career opportunity do lie ahead. One of the things as our educational system in the United States, I hope it is trying to do a better job, is to project ahead what there would be needed, whether it's for teachers, whether it is for doctors, whether it is for nurses, whether it is for accountants, whatever the managers of small business. These are things that may be as you think ahead where the interests would lie.

You have here a very famous school of music as well, and emphasis on music is something that is really very unique and important in Japan. We have really enjoyed going to many concerts in Tokyo. And I was just recently with the New York Philharmonic, it was playing there with Mr. Mahta who is the manager, and I was saying, talking and he said, “We are both acknowledging how there is no audience the orchestra was rather playing for than audience in Japan.” I have heard this over and over. Just tell you who might here in music department that audience in Japan are so respectful of music that is a joy to go to a musical performance here. In the United States, we jump up and down, and clap and carry on. It is the same respect but not the same reverence, I don't think. That is really given for appreciation for music. That is wondering on the path of politics too. But I suppose what I am hoping to say is the things that have valued, you value here, that things that means something to you and your life are going to be things that should continue to guide you.

But for young women today, balance in the priorities in your life, recognize the important role you can play. When my children were little, I used to take them door to door with me as I campaigned for candidates and I was supporting an election. I used to take them with me when I go vote, and then bake

さいころは子連れで戸別訪問をして、支持する候補者の選挙活動をしました。投票所にも子連れで行って、投票日にはケーキを焼きました。というのは、投票日は大切な日だからです。この行動の一つ一つは小さいのですが、これが違いを生み出しているのです。ここで一つ引用をご紹介します。シェイクスピアのハムレットの一部です。原文そのままを見つけられなかったので、解釈の一つかもしれませんが、「自分自身が今どうであるかはわかっているが、どうなるのかはわからない」。私たちは皆、今自分が何者であるかは知っています。しかしどうなるのか、可能性については知りません。これが変革への挑戦の素晴らしい点だと思います。ご清聴ありがとうございました。

a cake because an election day became a very important day. And I think that these are the things we can do some times are small, but they make a difference. And so I would adjust in a quotation. I am told this from Shakespeare's Hamlet. I have had a hard time finding exactly, so this may be a reinterpretation. “But we know what we are, but not what we may be.”

And I think we all here today know what we are. But we don't know what we may be. And that is the exciting part at the challenge of change. Thank you very much.

#### Questions and answers

(First question)

Q: Good afternoon Mrs. Baker. I'm Junko, and thank you very much for your wonderful speech. I thoroughly enjoyed and feel very honor to be able to be here with you today. My question to you is about your committee activity during your Senate years. So it is a bit different from what you talked about today. In your career, paper, it says you chaired the committee of African affairs. I wonder what guided you into that direction. I found your names in many websites, saying you were the member of the committee for Africa and if that's true with Tony Brea from Britain as well. So, obviously your interest goes to the third world countries and I wonder where your interest in that direction comes from. That is my question. Thank you.

A: Thank you very much. That is a good question, and you've certainly done your homework. You've read websites, and that is an interesting question. I went on the foreign relation committee in a Senate in 1981, and served there until I retired from the Senate. You get your committee assignment, your chairmanship or ranking. In that case in 1981 was chairmanship because the Republican was the majority in the Senate. And senior members

### 質疑応答

MC：ベーカー夫人、大変励みとなる「チャレンジ」のスピーチをどうもありがとうございました。ここで、質疑応答にうつりたいと思います。英語でも日本語でも、どちらの言葉でも結構でございます。ご質問いただけましたら、大使夫人からお答え下さいます。

This program is simultaneously interpreted into Japanese and English by four graduate students. So please do not hesitate to frankly ask questions to Mrs. Baker in either language. (今日は同時通訳がついております。大学院の学生が4名日本語および英語に通訳いたしておりますので、どの言葉でも結構でございますので、忌憚無くベーカー夫人に質問をお願いします。)

質問1 (薮野さん)：ベーカー夫人、こんにちは。ジュンコと申します。素晴らしいご講演を頂きましてありがとうございました。大変興味深く聞かせて頂きました。本日ここでご一緒できますことは私達の大きな喜びでございます。私の質問は上院議員時代の委員会でのご活動についてご質問したいと思います。ですから本日のお話の内容とはちょっと離れてしまうのですが、上院でのご経歴の中で、アフリカ小委員会で委員長を務められた、との記述がございます。インターネットでお名前を検索致しますと、(イギリス首相の) トニー・ブレア氏などと共にアフリカ関係の委員会に参加されていたと何度も出て参りました。夫人は第三世界の国々に興味がおありのようですので、どうしてそのような方向に興味を持たれたのか、それが私の質問でございます。

Mrs. Baker：ありがとうございます。いいご質問ですね。またこの講演を聴くにあたって必要な「宿題」をきちんとインターネットでなされたのですね。私は上院の外交委員会に1981年から任期の終了まで所属しました。委員会の所属については、多数派政党の院内総務の指示に従うわけですが、当時共和党が上院の多数派でした。ベテランのメンバーからまず委員会を選んでいくわけですが、私は中東かアフリカかを選ぶように言われました。アフリカは中東より

take first pick of committee assignment, and it came down and I had a choice of the Middle East or Africa. I thought maybe Africa would be the less troublesome than Middle East. That's how I go to Africa. And I am ashamed to say I knew nothing about Africa, I really had wanted Latin America, which I felt I understood a little better. I had an opportunity to change through the years I was on the committee, but as I said, you tend to lose your heart in Africa, and I became quite interested in all of the problems that we faced during those years, the apartheid issue in South Africa, and the first famine in Ethiopia, and troubles in Somalia, so forth.

And I've got to know many of the African leaders that were involved at that time. But it was all by chance. I really knew very little of the history of different countries on the continent of Africa. Interestingly enough, one of the things I remembered early on was visiting at Mozambique. And I was so impressed with the aid that Japan was giving in helping build or rebuild a deep water port in northern Mozambique. And ever since, I have been very admiring how Japan has handled foreign aid, because in many ways, it was designed not only to benefit Japan but the country they were assisting and in this instance alone with this port in Mozambique, which was very important. But the equipment from Japan, the involvement in development with Japan and in turn they trained people there to do the work on the equipment and whenever any new parts are needed or equipment was needed, because it was ordered from Japan. So in many ways, the particular aid was the two-ways street. And I thought that was a very constructive way to handle it. So I have been involved with Africa for a long time.

This commission for Africa started about last, about year ago now, not quite, by Prime Minister Blair, United Kingdom, called the commission for Africa. There is eighteen members. I am from United States as a member.

トラブルが少なそうだと思ってアフリカを選びました。(笑) こうしてアフリカ委員会の所属になったわけです。(笑)

恥ずかしい事ですが、当時アフリカについて全く知識はございませんでした。私が本当に興味があったのはラテン・アメリカで、ラテン・アメリカについてはより深く理解をしていると思いました。後になって、(委員会を) 変わる機会があったのですが、でもアフリカに「恋をした」のですね。おっしゃるように、何年もアフリカの問題に関わっていく中でアフリカに非常に興味を持つようになりました。南アフリカのアパルトヘイト問題、エチオピアの最初の飢饉、ソマリアの問題などです。たくさんの当事者たる当時のアフリカの指導者ともお目にかかりました。しかし、これは全て偶然だったのです。

私は本当にアフリカ大陸の色々な国々の歴史については無知でした。面白い事ですが、委員会に所属した初期の頃のことによく憶えているのは、モザンビークを訪問した時の事です。私が感心したのは、日本の援助が与えられて、モザンビーク北部の港をその当時日本が建築、というか建て直しをしていたわけですね。その時以来、日本の外国支援のあり方に対して深い敬意を抱いています。日本の援助協力は日本のためのみならず、多くの意味で被援助国の大きな支えになるようになってきているのです。このモザンビークの港は勿論大変大切だったわけです。機材は日本から運ばれてきました。日本がこの開発をする、現地で作業をするために人材の訓練を行っていました。必要なものがあれば全て日本へ発注するわけですが、多くの意味で、この援助は双方向で役立つものだったのですね。これは非常に建設的な援助のあり方だと思いました。ですから、私はアフリカに長く関わってきました。

そして、まだ1年にもなりません、トニー・ブレア英首相のご提唱で、アフリカ委員会が発足しました。18カ国が参加しており、わたくしは米国の代表です。参加国の大部分はアフリカ諸国です。ブレア首相は来年夏に開催される英国でのG8サミットの議長です。彼はアフリカの問題をサミットの最重要課題として審議したいと思っています。ですから、G8に持っていくための提案

Most of the members are from Africa, but Prime Minister Blair is chairing the G8 conference next summer in the UK. He wanted to put Africa at the top of the agenda. So he is asking us to come up with recommendations that he can take to G8. Sadako Ogata was asked to be a member of the commission. But because of her responsibility with JICA, and United Nation's reform, she didn't feel she had a time, which is unfortunate because she is really an extraordinary leader in the field of international affairs, for her work as High Commissioner of UN for Refugees was the extraordinary leadership. And I am great admirer of Mrs. Ogata. She and I talked several times about this work in Africa in the commission for Africa. But that's how I got involved in Africa. I really enjoyed very much being on the foreign relations committee and had the opportunity to do quite a bit of different work on that committee.

Did I answer your question?

And in fact that's how the committees worked in the Senate. It's all seniority. That's why I stayed a little bit longer helps. I was just going to retire after, you know, the Senate is six-year term. And I was going to retire after the 12 years. But I saw an opportunity that there would be chairing the Labor and Human Resources Committee. So I ran for the third term. I was able to chair then ultimately that committee which is a major committee in the Senate. The name has now been changed to the Health, Education, Labor and Policies. Health is a bizarre name for that committee. But seniority becomes very important, and certainly as you can be to be a chairman, you have a lot of ability then to raise issues and handle the issues to your committee. And in my case, at that time Senator Kennedy was the ranking member, because the Republicans had the majority and I was the chairman, he was the ranking member. He had been chairman previ-

をもっとするようにとの要請が私たちに対してありました。緒方貞子氏に対してもメンバーになるようにと要請があったのですが、JICAでの責任やUN改革との関わりがあり、ご多忙で時間がないとお感じになり、実現しませんでした。これは残念なことです。わたくしは、緒方貞子氏は国際問題分野での素晴らしい指導者だと思っているからです。UNHCRでの指導者としてのご実績は本当に比類なき素晴らしさでした。私は緒方氏を非常に尊敬しております。何度かアフリカ委員会の事でお話をしたことがございます。ですから、このようにアフリカに関わるようになりました。私は（米国上院）外交委員会での仕事を、そして外交委員会で多種多様な仕事に携わる事を楽しんで参りました。ご質問への答になりましたでしょうか？

藪野さん：はい。ありがとうございました。

Mrs. Baker：このように委員会の仕事は年功序列なのです。ですから、少し長く仕事しているといいこともあるわけですね。上院の任期は6年です。私は12年で引退しようと考えておりました。しかし、3期目を務めれば、労働・人材委員会の議長をする機会があることが分かりました。それで3期目も立候補致しました。それで、この委員会の議長を務めることができました。これは主要な委員会です。今は改名されて健康・教育・労働・政策・援助委員会という名前になっています。ちょっとおかしな名前ですね。（笑）年功はとても重要です。議長になれば、問題を提起し、審議していく権限があります。

私が議長だった時代にはケネディ上院議員が有力メンバーでした。以前はケネディ上院議員が議長でしたが、その当時は共和党が多数派でしたので、私が議長、彼が有力メンバーだったのです。私たちは多くの健康に関する問題でよく協力しました。どうして（共和党员である）私が民主党員（であるケネディ上院議員）と協力するのかわかれるかとも知れませんが、しかし、法案の立案をよく一緒に行いました。ケネディ上院議員は素晴らしい立法者ですし、懸案事項があれば多くの時間を共に作業をして過ごしました。

ously. But we worked together on quite a few health issues, because even now Kansas might wonder why I could work with the Democrat. We worked really quite well together on legislation, because Senator Kennedy was the good legislator, and when we cared about an issue, he spent a great deal of time working on the issue and see that was succeeded.

(Second question)

Q: Thank you very much Mrs. Baker. The speech was fantastic. This might get off the topic of education, but I was wondering being that Japan is taking more international role of world affairs, build the more military support internationally, to Iraq, and also maybe willingness to drive to join the United Nation's Security Council. What do you feel the Japan's role should or might be in the future?

A: I usually leave those questions for Ambassador. That's why I speak on education.

MC: Would you mind if you tell us your name and department?

Q: I am Michel Kelly. I am working here in Japan in an educational field.

A: But I would only say I know what the Ambassador has felt and I was sure that Japan should have a seat on the Security Council.

Q: In term of globalization issue and internationalization.

A: Well, that's why I mentioned while I was speaking that if Japan is going to have the major role, then, I believe they should have and will have. It's going to mean that there has to be a greater participation on the part of everyone in the international arena. I think it comes from language. I hate to say it, but English is more universal language than Japanese and I think to really be engaged, that is going to be important. But I think what is very positive is the beginning of the opening of mergers and ventures between

MC : If you have any more questions, please do not hesitate to ask them in Japanese. その男性の方、どうぞ。Ms. Abiko, please pass the microphone to him.

質問2 (Mr. Michael Kelly) : ベーカー夫人、ありがとうございました。素晴らしいお話でした。本日は教育のお話をして頂きましたが、日本は最近、以前に比して軍事面での支援、例えばイラクのようなものを含め、国際問題で活躍するようになってきました。国連の安全保障理事会の常任理事国になりたいという意欲もあります。ベーカー夫人は日本の果たすべき、果たすかもしれない役割をどのように考えておられますか。

Mrs. Baker : 通常、私はこのような質問に対するお答えは大使にお任せしています。だから私は教育のお話をしているのですよ。(笑)

MC: Excuse me. Would you mind stating your name, Sir? お名前をおっしゃっていただけますでしょうか。

Mr : Michael Kelly : マイケル・ケリーと申します。日本で働いております。教育分野に携わっております。(笑)

Mrs. Baker : (笑) しかし、大使のお考えになっていることは分かっておりますし、私も考えを共にしております。日本は安全保障委員会の常任理事国入りをするべきだと考えておりますということだけ申し上げます。

Mr. Kelly : グローバル化、地域間交流という意味合いではいかがでしょうか？

Mrs. Baker : それは、講演の途中で少し触れさせていただいたのですが、日本が世界で主要な役割を果たすなら、日本は当然、自然と国際的に多様なことに参加するようになると思います。後は語学の問題ですね。こう申し上げるのは、嬉しくはないのですが、英語は、日本語と比べますと、色々な関わりを持っていく中で、よりユニバーサルな（世界で通用する）言語ですので英語は大変重要です。非常に良いことだと思いますのは、大企業の合併・ベンチャーを皮

big companies, TOYOTA or Nissan, some of the big plants that have gone abroad, but in return, others are coming here. I think that is going to occur more and more often, and I think that is positive.

Now, we have a little issue on abandoning beef. I only bring it up because I have cattle on my farm. But on the other hand, I don't think we test enough in the United States, so I think it is an issue.

Actually I would wish US and Japan could work a little more closely on the issues of food safety, because Japan is interested and we are interested, and I think with the dedication here and my home as well, between us, we could set really good standards that could be utilized for a whole. If we would just look at helping set some of those goals, not just for a cattle but poultry and fish. It is obviously a big issue when it is one that scientists could be engaged in it together, I think, in a very constructive way. That is a little bit. That is an example of where I see a future for Japan, and for the United States to work with Japan and other countries as well.

And I think obviously and honestly, China is expanding in an enormous way, and Japan has unique contributions that they can make, and I think need to be thinking ahead of ways they can be engaged right now. Because it is going to be important. I think that is why a seat on the Security Council would be a value. But I think also it is going to be something that this younger generation has an opportunity to say this is what we need and want and we really would be engaged and seeing their works. You know it is hard when we go through such changes. I think in the United States, we can see a return of some isolationist feelings, I think we stretched ourselves so thin. There is a real desire to say, “Stop the world! I want to get off!” It just becomes so hard to know how to really be so intensely engaged. And the danger is withdrawing within ourselves. I think

切りに、トヨタ・日産などの日本企業が海外に進出しており、その代わりに海外の企業が日本にやって来ていますね。将来もっとそういった事例は増えてくると思います。これは前向きな動きですね。

さて、日米間では今牛肉がちょっとした問題になっていますね。(笑) 私がこの話をするのは、私がカンザスの農場で牛を所有しているからです。(笑) しかし、私は、米国での検査は不十分だとも思います。ですから、これは日米がより緊密に協力できればと思う問題です。食料安全保障の分野ですね。日米が協力して、世界中で使える良い基準を作る手助けをする。牛肉だけではなく、鶏肉、魚肉などにも使えるものです。こういった分野は日米の科学者が建設的な貢献ができる分野だと思います。こういった分野は、日本の将来（の道筋）が見えてくる良い例だと私は思いますよ。アメリカにとってもですし、日本だけでなく、他の国にとってもそうだと思います。

正直申し上げて中国は非常な成長を遂げています。日本ができる独自の貢献といったものがありますし、（日本が）先を読んで、関わっていく必要があると思います。将来、それが重要になってくるのです。だからこそ国連安保理の常任理事になることは価値があると思いますし、皆さんのような若い世代が、「これが必要で、これをしたくて、これに関わって、そしてうまくいくのを見てきた。」といえる機会を持つことにつながっていくと思います。このような変化を乗り越えていくことは易しいことではありません。米国では孤立主義への回顧傾向が見られます。アメリカ人は自分に負荷をかけすぎて、「世界よ、止まれ、もう降りたい。」と言いたいような願望が感じられます。どうすればこんなに密に色々な事に関わり続けることが出来るのか、そして私たちが心の中で撤退してしまう危険をどうすればよいのかを理解するのは非常に難しいのです。私たちは事態がこのように複雑になれば皆同じような経験をするのです。これでは当然過ぎる答えでしょうか。

Mr. Kelly：いいえ。(笑)

we all go through that when there such complexity is involved. Does that sound too comparable to you?

Q: No.

(Third question)

Q: My name is Ota. Of course I am not a student of Kobe College, because I am a male and my age is over qualified. I have a question. I have been watching a presidential debate on TV. But I don't have abundant knowledge about presidential election. I have one question about the Democratic Party and the Republican Party. What is the major difference between President George W. Bush and Mr. Kelly. In addition to that, I really hope President George W. Bush will be reelected on coming November 2. Thank you very much.

A: How did you end that you hope President Bush will be reelected?

I don't know there is enough time to explain the difference. I suppose it is just as a nut shell. As I think, I hope to try to say, during a campaign I don't know that you are able to go into the depth of any difference. So much are said for the purposes of campaign. And so much today is target what you get in a headline. For instance, as a Republican, I worry there is a deficit keeps growing. We work very hard to try and keep spending under control or be able to raise taxes. We cut taxes but we are still spending more. You can argue for the period of time. That is OK. But I think ultimately, it is not healthy. But there has been no sense of proportion in any debate on either side about the complications of that. That is not something most of the people want to hear.

Health care, enormously complicated. How are we going to pay for medi-care, our insurance program, or social security. It is the same issue

Ms. Nancy Landon Kassebaum Baker, 駐日アメリカ大使夫人 特別講演 “Challenge of Change”

MC：ありがとうございます。他にご質問がおありでしょうか。 Excuse me, Sir, please state your name and affiliation.

質問3（大田さん）：大田と申します。ご覧の通り、神戸女学院の学生ではありません。男性ですし、制限年齢も超えているでしょう。では質問ですが、テレビでアメリカの大統領選の討論を見ていますが、アメリカ大統領選についてはあまり知識がありません。お聞きしたいのは、民主党と共和党に関して、おもな相違点は何なのですか？ブッシュ大統領とケリー候補の違いは？付け足しますが、11月2日の投票ではブッシュ大統領が再選されることを期待しています。

Mrs. Baker：ブッシュ大統領の再選を望んでいるのですか？

さて、両党の相違点を説明するに十分な時間があるかどうか。しかし、簡単に言いますと、先ほどもお伝えしようとしたことですが、選挙戦の間に本当に違いを深く掘り下げることができているのか、疑問です。選挙で勝利を収めるためだけの言論、見出しを飾ることを目的とした言論が今はあふれています。

例えば、私は共和党員として、赤字が膨らみ続けていることを心配しています。支出を抑えようと、増税できるところでしようと思死の努力をしていますが、減税をしてそれ以上に支出しているのです。少しの間そういった状況が続くことは容認できるかもしれませんが、最終的にはこれは健全ではありません。ところが、どちらの党からも、この複雑な問題を十分に把握した議論が聞かれませんか、多くの国民もあまり聞きたがらないようです。

医療も、非常に複雑な問題です。メディケアや保険、社会保障にいかにして資金を充当していくのか。日本も同じ問題を抱えていると思います。日本は高齢化社会です。アメリカも確かにそうなのですが、日本ほどではありません。アメリカでも寿命が延びていて、そのことが十年後これらの問題に大きく影響を及ぼすわけですが、この点を深く掘り下げることがどちらの党もしていません。

私の個人的な経験から、一千人の聴衆の注意を引き続けるというのはとても

taking a place here in Japan. You are in an aging society in Japan, we really are too, but not to the extent Japan is. And that we are living longer in the United States, and that tells in a significant way, what ten years from now, these issues would look like. But no camp on the either side, really gets in the matter.

From my experience, I know it is very hard when you are speaking to a thousand of people to really keep audience engaged. It is hard enough just to hear with the small audience for any length of time in any depth in special. I myself probably would be boring hearing myself talk about it. But it is becoming impossible at home to really be willing at the stand up and engage in audience to say, "I don't have the answer for this. But here is what we face." But no one really wants to do that in the campaign.

Now, the difference, I think that is going to way out in the election, is what voters respond too emotionally in this election. Though be those who really feel President Bush as being too bigoted and too unwilling to look at alternatives. There is going to be those that Senator Kelly has not necessarily won over people, who really not sure what he would do. So you have the people really very emotional. I think. it is going to be very close. My hope is that it won't be contested, the worse thing that can be happened would be challenges on all sides of the ballot; a ballot hasn't been counted, ballot that has counted wrong, people feeling there have been an abuse at the poles, it will drag into the courts, have been a terrible situation. So I hope that that won't happen. That is why for those of you considering being lawyers.

Japan has never been particularly a litigious society. I value that. We need good lawyers. In this election, we have Republican lawyers and Democrat lawyers lined up by the hundreds. That is only going to mean

難しいことです。今日のこの少人数でも大変なのですから、ある程度深い討論にある程度の時間引き込むのは大変です。話をしながら自分が退屈することだってあるかもしれません。アメリカでは、堂々と聴衆に向かって、「私にも答えがあるわけではないですが、このような問題にわれわれは直面しているのです」と言えなくなっています。選挙戦でそういうことを誰も言いたがらないのです。

今回の選挙戦では、有権者が感情的に反応する事柄が両党の相違点を浮き彫りにするでしょう。ブッシュ大統領があまりにも頑固に他の選択肢に目を向けなさ過ぎると感じる人もいるでしょうし、この点でケリー上院議員が必ずしも人心をつかんだわけではなく、ケリー氏は何をしようとしているのか不明瞭だと感じる人もいるでしょう。そんな感じで、国民は感情的に分かれています。選挙は接戦になるでしょう。選挙結果をめぐる争いにならないことを願っています。最悪の事態は、全陣営から異議が唱えられ、票に関して数えられていないとか数え違いがあるとか、投票時に不正があったとかで、この件が裁判所に持ち込まれることです。そういうことは最悪です。ですから、そういうことにならないことを、強く願っています。将来、弁護士になろうと思っている人もいらっしやると思います。

日本はこれまであまり訴訟好きの国ではありませんでしたし、私はそういうことを尊重します。アメリカではいい弁護士が求められています。しかし、今回の選挙では、何百人という共和党の弁護士、民主党の弁護士が待ち構えていて、そんなことは害にしかならないでしょう。危険な状態です。

mischievous. So we are on the line, I am afraid.

(Fourth question)

Q: Thank you very much for your provocative lecture. I am very appreciated. I am a woman working here. I'm sure you had many difficulties during your long career, and you talked about the balance in responsibility and taking priority, and so on. If you don't mind, would you give us some concrete examples how you overcame those difficulties and conflicts being a wife, mother or as Senator?

A: Thank you. That is why I mentioned the priorities. For myself, I have never wanted to be engaged in a political career with children. Because it is very demanding and I would not have wished it. My daughter is a veterinarian and as such is engaged in comparative physiology research. I have a daughter-in-law who is a lawyer, and another is an assistant to the President of College of Charleston in South Carolina. And I have one son who has not married yet. So I look at them and their children and don't know quite how they do it. Because I think there is a lot of stress today in trying to struggle to do too much. That is why, I think, a person has to feel comfortable. It is not easy to decide what those priorities are. That is one of the hardest things perhaps to try and realize there is a balance.

I was fortunate in running for an office because it was an open seat, and there were seven of us in the Kansas Republican primary at that time. I think if it had been two men and myself, I might not have won. But it was so split, and I entered late, you just don't do it for fun. I carefully sort of assessed there was a large group from one area of a state. I was sort of from another area. And it was the time I felt I could do it. I was often asked early on how I felt to be just a one woman out of a hundred in a

質問4（鵜野先生）：今日は素晴らしいお話をいただき、ありがとうございます。女学院の職員をしている者です。夫人の長いキャリアの中には、困難もおありだったかと思いますが、どのようにして優先順位をつけてこられたのか、具体的な例をご紹介いただきたく存じます。どのようにして、妻、母、上院議員としての役割のバランスをとってこられたのか、その中で生じる軋轢をどのように克服されたのかお伺いしたいと思います。

Mrs. Baker：ご質問ありがとうございます。優先順位のお話をしたのはまさにそのためです。私自身は、子供がいる身で政治家としてのキャリアを築きたいとは思いませんでした。というのは、政治家の仕事は大変きついからです。娘は獣医として生理学の研究開発に従事し、義理の娘は弁護士で、もう一人はサウスカロライナ州でチャールストン大学の学長秘書をしております。それからまだ結婚していない息子が一人。子供たちを見ていると、すべきことが多いなと思います。現代では、あまりに多くのことをしようとしてストレスを感じるのではないのでしょうか。だから不満を感じるのだと思います。優先順位を決めるのは簡単ではありません。いろいろやってみて、バランスがとれているのだと感ずることが一番難しいのではないかと思います。

選挙に出たときに幸運だったのは、議席が空いていたことです。当時、共和党のカンザス州予備選挙では他に7人の候補者がいました。もし男性2人に私だったら、勝てないなと思っていました。しかし票は大きく割れていました。そこで相互関係を考えながら、注意深く分析をしたのです。その結果、カンザス州のある地域に大きなグループが一つあり、自分が他の地域に属していることがわかりました。そのときに勝ち目があるな、と感じたわけです。100人の上院議員の唯一の女性議員であることをどのように思うかとよく聞かれました。しかし現実には楽しいものでした。実のところ私の声は誰よりも大きかったようです。たった一人の女性でしたから。実際には女性であることが強みだったのです。しかし、私が女性であることを利用していると他の男性上院議員に思われたくなかったので、「私は全く脅威ではない」と言っていました。

Senate. It was fine. Actually I probably had a bigger voice than anyone else because I was just the one woman. So it was certainly advantage actually, but I never wanted any of my male counterparts, male colleagues to think I was taking advantage of it. So as I said, I was really no threat.

But I think there is very personal sort of things you do have to weigh up. And as I say, what has been valuable to me was the support I had from friends. I am not sure my own children. My older son and daughter helped me in campaign. My son drove the car in and around the state. So it was very much a family affair at that time. But it changed their lives. My daughter went into the peace core after she graduated from veterinary school, and that changed her life. She went to Africa, actually. So we all have an African connection. My son traveled more, too, I think, because my being in a Senate and I look for the election connection. So there is the circles to what one does. Any of the difficulties arise, I think, comes to all of us, just adjustment you make. That is why I value the security of the friendship she'll make, and are lot of them were friends she made in college. Whenever I went out to campaign, in almost every city in Kansas I went to, there was someone I've known at the University of Kansas. Or my children were in the Kansas State University, we were covering both. They were friends I'd had, and if they were helping another candidate, they suggested someone else if I could ask to help me. So it was aware of friendships, and for those of you here, that would be very important. You may not realize it now, but it was a great opportunity for me just to share of what. Thank you, thank you very much. I don't know if there is further question or not.

(Fifth question)

Q: 素晴らしいお話をありがとうございました。夫人のお話の自分ができるこ

けれどもあなたが解決したいのは個人的なことだと思います。そういった意味で私にとって貴重だったのは友人、家族からの支援です。子供がどう思っていたかはわかりませんが、長男と長女は選挙活動を手伝ってくれました。長男は運転手役を務め、しっかりとした運転ぶりでした。つまり当時は、選挙活動も家族の行事だったわけです。子供たちの人生も変わりました。娘は獣医大学を卒業すると平和部隊に参加し、人生が変わったのです。娘はアフリカに行きました。ですから家族ぐるみでアフリカと関係があるわけです。息子は私が上院にいて選挙のつながりを求めているのでよく出張しました。様々な人の輪がありました。調整をする中で、誰にでも難しい問題はあると思います。そこで助けになるのは、ご自分の友人のネットワークだと思います。私の場合は大学時代の学友が助けてくれました。選挙活動をするときはいつでも、カンザス州のほとんどどの町に行っても、カンザス大学での知り合いが誰かしらいたものです。一方、私の子供たちはカンザス州立大学を知っているので、両大学から支援を得ることができます。友達が他の候補者を応援している場合は、私が応援を頼める人を紹介してくれました。この友人の輪が、当時の私には大変重要だったのです。まだ実感されていないかもしれませんが、私にとっては大きな助けとなりました。

たくさんご質問いただきありがとうございます。

質問5（新田さん）： Thank you very much for the wonderful speech. I took your words telling about the importance of balance to be taken between what we are able to do and what have priority in my heart while I was listening your talk. I am teaching at a vocational school. I am seriously worried about labor problems of today's young people. Even for very good students, it is extremely difficult to find a full-time job, and many of them become job-hoppers. I am concerned that in the current Japanese labor system, they tend to encourage fringe workers, temporary employment contract and part-time employment,

との認識そして優先すべき事項のバランスをとることを心に刻みながら聞いておりました。私も専門学校で講師をしておりますが、今の若者の労働問題についてとても心配しております。とても優秀な学生がなかなか就職できずフリーターになってしまうということが多いのですが、今の日本の労働制度は、どうも派遣制度、契約社員制度、アルバイト、パート制度を優先にしてしまう、プロが育ちにくい状況を作っているのではないかと、私は心配しているのですが、この状況がベーカー夫人の目にはどのように映っているのでしょうか、お話を伺えればありがたいです。

A: Thank you. That is what I hope to address a little bit, in saying better career counseling. Now by that, I mean actually starting in high school. With career counselors in a school, we are having the same problem in the United States. Because there are lot of time students sort of drift into work and yet not to prepare to know what is out there may be in an avenue that they could precede in.

But in high school, you think you might want to be a nurse or a doctor. What should you take, what course should you take to become successful in finding a job in that field. If you wish to go into a business, what courses should you take to help you understand the management of business. I don't think that anybody can just sort of start a fashion design company, for instance. Without a little bit of guidance about what might be useful in a management, none of them know the answer to your question. But I find that many young people, of course again I am mentioning I started as a receptionist, I didn't know what I wanted to do either. In my day it was assumed that you get family and you have family. That is changing today and I think many of young women wish to have some other avenues.

I think that is important at least to be prepared whether it is teaching

which is making it difficult for young people to become real professionals. Mrs. Baker, how do you think of this situation? I would appreciate it if you could share your observation on this matter with us.

Mrs. Baker : ありがとうございます。お話をしたいなと思っていた話題なのですが、より良いキャリア・カウンセリング、です。私が言っているのは高校から始めるもので、高校に良いキャリアカウンセラーを配置する、ということです。米国にも同様の問題があります。多数の学生がある意味で、安易に仕事へと「流れて」いくのですが、他の可能性、道があることを知らないままなのですね。

高校で、例えば看護師、医師などになりたいとしましょう。この分野で仕事を見つけるためにはどのような科目をとるべきか。もし、経営に携わりたいなら、事業経営を理解するにはどのような科目を取らなければならないか。例えば、経営に何が必要かというちょっとした手ほどきなしに、誰でもファッション・デザインの会社を始められるとは思えませんね。これがご質問の答えになっているかどうかは分かりませんが。多くの若い人が、あの、私も若いときに受付嬢として仕事をして、私自身も何をしたいのか分かりませんでした。まあ、私が若い頃は一般的には（女性は）結婚をして、家族を持つということが前提になっていました。その前提が今日変貌してきています。女性の多くは少なくとも他の道を選べる可能性を持ちたいのです。

ですから、少なくとも準備ができていることが重要だと思うのです。教師、医学関係、研究、こういった仕事には何が必要なのか。世間には多くの「一時的な」仕事があります。これは一時的には有用な仕事かも知れません。しかし、自分が歩もうとしている道筋を進むにあたり、自分自身の準備を整えていくための目標のようなものが重要だと思います。また、職業訓練、技術面の訓練も非常に重要だと思います。授業で学ぶことも電気工事も、女性は男性と同じくらいうまくできるのですよ。電気工事の仕事。私には無理ですけど。こうした分野は女性に対して解放されてきていると私は信じています。(会場、笑) 皆

or medicine or research, what is requiring. Now there are a lot of temporary jobs. That may be useful for a time, but if you have not had something that is a “goal” that helps you be better prepared for courses you take. I think vocational technical education is very important. The skills in crafts, skills in electrical work. Women can do just as well as men, electricians. I certainly couldn't. But it feels today like that opening to women, I believe. Certainly they are you who laugh, is it not true here? But in the United States, it certainly does. And that is what we use what we talked about the vocational technical training. Very important here. I don't know if that answers your question.

But I find, as I mentioned, there are so many say they would like to go into international affairs, but that is a very vague field. Unless there is some way specific you have something to offer and know what that would be, then that is hard to make an impact.

I certainly urge you to think of you to be an officially really good teachers. There is a need everywhere for high quality teaching. If that dose not interest you, then that is where the career counseling is helpful to suggest there is other field that might. I think any of us, it is almost too late at the time you get into college any more. I think there is some directions that you could be pointed in.

Kobe College, like some of our schools in the United States, is a wonderful liberal art school. You are not charged to go to the one direction. I think that is value. It gives you a very broad and engaging mind. That is extremely useful. When you are worried about what you might do, there is where, I think, it is useful to have some alternatives about our good liberal arts college degree can take you. So as I said before, you never know what you may be doing.

さん笑っていますが、日本では違うのですか？しかし米国ではかなり開放されてきていますし、職業訓練、技術面での訓練の話、をする場合は、こうした仕事の訓練をほどこすことになります。こうした訓練は非常に重要です。ご質問の答えになったかどうかは分かりませんが。

しかし、私がこの話をするのは、実に多くの方が「国際関係」の仕事をしたい、とおっしゃるからです。でも「国際関係」は大変定義が曖昧な分野です。少なくとも、自分が貢献できて、それがどのような貢献なのかを知らねば、影響力を持つのは非常に難しいでしょう。

私が本当にあなた方に推奨できるのは、実力のあるプロフェッショナルな教師になることを考えることです。質の高い教育の必要性はどこにでもありますよ。もしそれに興味がなければ、そこがキャリア・カウンセリングの出番で、他の、あなたの興味を引くかも知れない分野を提案してくれるわけです。これが十分に出来ていない場合が多いのですね。多くの場合、大学生になってからでは既に遅いのです。（その時点では既に）ある特定の方向に向かってしまっているのです。

神戸女学院は、米国にもいくつかあるのですが、素晴らしいリベラル・アーツ教育をされる大学です。（神戸女学院の）学生の皆さんはひとつの方向性に縛られなくて良いのです。だからこそ幅広い、色々なことに興味を持つ心が養われると思いますし、これは有用なことですね。もし、将来何をするかに迷っておられるなら、質の高いリベラル・アーツ教育の学位を取って何が出来るのか、多様な選択肢を持つことは良いことです。ですから、申し上げましたように、将来自分は何をすることになるのかは誰にも分からないのです。

神戸女学院の学士号は、自分がつぎ込んだものが成果として出てくるものです。どこにいてもそれは同じことだと思います。私は生涯教育を強く信じています。私は3年、4年近くなりますが、日本での滞在経験の中で、たくさんの方のことを学びましたし、日本が国際舞台でどのような貢献ができるのかに関するより広く深い理解・評価をたくさん（米国に）持ち帰ると思います。（日本は）

The college degree that you get here, you would get out of exactly what you put into it. That is true, I think, wherever we are. I am a big believer in continuing education. I have learned a lot here for my three years in Japan, almost four years now, and it has been something I will take away from me. I hope with the better understanding and appreciation of what Japan has to offer in the international arena, because it is significant. The opportunity to be engaged in a major way is really going to be up to you. Thank you very much.

(Sixth question)

Q: お話の中で、教師の職業は子どもに対してすごく影響があるというお話がありました。ベーカー夫人ご自身が影響を受けた先生はいらっしゃるのでしょうか。もし自分が成長をする過程で影響を受けた先生がいらっしゃるのなら、どのような先生でどのような影響を受けられたのかお伺いしたいと思います。

A: Well, there are several. I suppose two are I remember the most. One was my teacher of English in Junior high school. I was scared to death. She actually terrorized the class. But I learned English. We had diagram sentences, and oval sentences that I don't do, anybody doesn't that today. But I remember her very well. I would never have wanted to cross her as a teacher. The other is interesting enough was a teacher I had in a P. E. It was required of us again in my Junior high school days. None of us liked to take a shower, and none of us liked to do gymnastics, but she was an extraordinary physics teacher and I become a great believer. I am not an athletic person. But I believe Physical Ed. is very important part of a curriculum, in particular, in elementary and secondary education. Not in college so much.

大きな貢献ができるのです。主要な貢献ができるかどうかは皆さんにかかっています。ありがとうございました。

MC：ありがとうございました。So let us have one very last question.

質問6（古庄先生）：In the speech, you mentioned that teachers have great influence upon children. Are there particular teachers from whom Mrs. Baker received influence? If there are any teachers who inspired or influenced you in the process of growing, I would appreciate it if you could tell us what kind of teachers they were, and what kind of influence you received from them.

Mrs. Baker：（心に残る先生は）何人かありました。2人がすぐ心に浮かびます。1人は中学時代の英語の先生です。私はその先生を死ぬほど恐れていました。彼女はクラス全体を恐怖に陥れましたよ。（笑）でも（お陰で）英語（国語）はできるようになりました。昨今、もはやどなたもなさないのかも知れませんが、文章の図解なども勉強致しました。彼女のことは良く憶えていますし、怒らせたくない先生でした。

もう1人の先生は面白いことに体育の先生です。必修科目でしたし、これもまた中学の先生です。誰も（汗をかいて）シャワーを浴びることや体育が好きではないと思いますが、本当に素晴らしい体育の先生でした。私自身はそれほど運動が得意というわけではないのですが、私は、体育は私たちの教育課程の中で非常に重要な部分だと信じるようになりました。小学校・中学・高校では特にその重要性が高いと思います。大学ではそれ程ではないと思いますが。

アメリカでは、特に財源の問題で、体育が必修ではなくなってきています。この先生方が、面白いことに、一番私の印象に残っている先生方です。その先生方はどちらも非常に尊敬されておられましたし、どちらの科目においても、クラスの規律正しさの上に、たくさんのことを積み上げて来ることができたのだと考えます。大変勉強になりましたよ。当時が私の人生で、最も体育をした

We dropped it in the United States, because the financing is far too often, it is not required any more. But it is quite interesting that teachers are remembered. But both teachers are respected a lot. And probably, both subjects are sort of I rebelled against the discipline of the class. But I learned. It was the most gymnastics I have done in my life. Is Physical Education required in the secondary education here? Is it in Kobe College, too? So, they do Physical Ed. That's good. You know in the United States, we are so concerned about obesity. It is really a No. 1 health problem in the United States. I think it is partly because we don't do the exercise. So now we are thinking back about how we need to improve our physical education programs. I am sure I should have mentioned a college teacher that impressed me a lot. Thank you very much.

時期ですね。体育は日本の中学・高校では必修ですか？（聴衆から “Yes!” という声が聞こえる。）どの学校でも、でしょうか。神戸女学院大学でも体育は必修ですか？（「大学ではないですが、中学部・高等学部ではそうです。」と聴衆から聞こえる。）中学部・高等学部で、ですね？

原田学長：いえいえ、神戸女学院大学では基本的な、模範的な、生涯健康でいるための科目を必修にしています。

Mrs. Baker：そこに体育も入るわけですね。良いことです。そうですね、米国では肥満が非常に大きな懸念となっています。米国では（肥満は）重大な健康問題の1つです。一部には米国人は、昔はやっていた運動をしなくなったからです。米国人は皆、自分たちの体育科目をどのように向上させるかに関連して再考しています。勿論、印象に残っている大学の先生のお話をするべきだったのは分かっていますが。（笑）ありがとうございました。

MC：Thank you very much.

どうもありがとうございました。

時間に限りがありまして、まだご質問があるかと思いますが、今日の講演会を終了させていただきます。皆様にご出席いただきまして心より感謝申し上げます。もう一度、ベーカー夫人に大きな拍手をお願いします。

Summary

## Special Lecture: "Challenge of Change" by Ms. Nancy Landon Kassebaum Baker

Junko Matsunawa

On October 29, Kobe College had a great pleasure and honor to have a special lecturer, Ms. Nancy Landon Kassebaum Baker, a former United States Senator from Kansas and now a wife of Ambassador Howard Baker of the United States to Japan. As Ms. Baker served United States Senate for 18 years, being a first woman elected in the Senate, she held influential seats on several leading committees and was a chair of Subcommittee of African Affairs, Subcommittee of Aviation and the Labor and Human Resources Committee. She, herself went through all these changes and by referring to her career, she talked to the audience to select the priority in life, and prepare oneself for what may come up next. She put much emphasis on the importance of education, especially for young people, which would never be wasted whatever position the woman may be at present. She cited the value of liberal arts education of Kobe College, which provides much variety of choice for the students and leaves an ample room to be developed by them in the future. She suggested the audience to participate in the activity in the society with knowledge, however small the issue might be, which will eventually lead to the change in society. She concluded her talk by referring to Hamlet by Shakespeare, "We know what we are, but not know what we may be."

There followed an active question and answer session for forty minutes. She elaborated her points by stating her job in details as a Senator. As the audience was very much interested in the coming up Presidential election, she an-

swered some of the basic issues people would have an interest in and the way the campaign goes. She explained her personal view on Japan's role in the international arena in relation to the possibility of Japan's permanent membership to the Security Council of the United Nations. It is the young generation, after all, who will state what we need and want, and go through change in the society.